

## 2024ブリヂストン鈴鹿4時間耐久ロードレース<ST600>

### ■開催概要

- 大会名称 : 2024ブリヂストン鈴鹿4時間耐久ロードレース<ST600>
- 主催者 : ホンダモビリティランド株式会社 鈴鹿サーキット
- 開催場所 : 鈴鹿サーキットフルコース(5.821km)
- 参加台数 : 総参加台数/57台  
インター4hours…34台  
ナショナル4hours…23台
- 開催日 : 8月3日(土)/公式予選、8月4日(日)/決勝レース
- 天候/路面 : 快晴/ドライ(3日)、快晴/ドライ(4日)



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。  
[https://www.suzukacircuit.jp/result\\_s/](https://www.suzukacircuit.jp/result_s/)



★レース写真は、バトルファクトリー様のHPで  
ご購入いただけます。  
<http://www.battle.co.jp/>



4時間後のチェッカーに向けて1コーナーへと突入していくライダーたち  
降雨のレースやウェット路面でのスタートが続いたため、実に8年ぶりのドライコンディションでのスタートとなった

## 2024ブリヂストン鈴鹿4時間耐久ロードレース<ST600>

### 毎戦熱いドラマが繰り広げられてきた鈴鹿4耐<ST600>。 最終開催年の今回も目が離せない展開に!!

鈴鹿8耐が開催された2週間後の8月3日(土)・4日(日)の両日、ブリヂストン鈴鹿4時間耐久ロードレース<ST600>が行われた。鈴鹿4耐は1980年にスタートした伝統ある耐久レース。その後、様々な変遷を経て2001年からは市販4ストローク600ccスーパースポーツをベースとするマシンによって争われることに。2017年から準国際格式となり、昨今は東南アジアからの参戦チームが優勝を飾ってきた。タイトルスポンサーは昨年に引き続き、タイヤを供給する株式会社ブリヂストン。大会名も「ブリヂストン鈴鹿4時間耐久ロードレース<ST600>」という名で開催された。

レースは例年通り「インター4hours」(登録ライダーにFIMライセンス保持者、MFJ国際ライセンス保持者を含むチームが対象)と「ナショナル4hours」(登録ライダーがMFJ国内ライセンス保持者のみのチームが対象)の混走によって行われた。それゆえ終始クラス違いのマシンたちが抜きつ抜かれつのバトルを展開するシーンが見られた。インター4hours、ナショナル4hoursともにそれぞれのカテゴリーで少しでも上の順位を獲得すべく、熱く激しい戦いを繰り広げたのが印象的だった。

かつて“バイクの甲子園”と呼ばれ、野心的なチームやライダーが割拠し、様々なドラマが生み出される中、鈴鹿8耐へとステップアップした著名ライダーを多く輩出してきたこの鈴鹿4耐も2024年が最終開催年となりました。長年ご参加いただいた皆様、支えてくださった多くの皆様に深く感謝申し上げます。



決勝レース日の午前中に行われたセレモニーで第1回大会のポールシッターから今回のポールシッターに対し、ポールポジション賞が授与された後、集合写真撮影が行われた

## 2024ブリヂストン鈴鹿4時間耐久ロードレース<ST600>

### 公式予選レポート

8月3日(土)にはRider BLUE、Rider YELLOWともに15分間ずつタイムアタックを行う公式予選が開催された。

午前に行われたRider BLUEの予選では5台が参加しているMOTO WIN RACINGが連なってコースインしていく。アタック開始直後にTOHO Racing Club & K0&ノジマ(羽根巧/笠井杏樹組)の羽根が2分16秒488をマーク。そのタイムをSE competition(千田俊輝/酒井隆嗣組)の千田が上回る。羽根は16秒233をマークして自己ベストを更新。千田も自己ベストとなる14秒842をマークする。Rider BLUEのグループトップは千田。千田が記録した14秒842はコースレコードを更新することとなった。

午後に行われたRider YELLOWの予選はRider BLUEが使ったタイヤのユーズドを引き継いで行われた。この予選ではHonda Suzuka Racing Team(井手瑤輔/中島元気組)の中島とTaira Promote Racing(岩本匠生/保坂洋佑組)の保坂がまず2分16秒台に入れる。さらにAKENO SPEED×GBレーシング(田中啓介/RAMDAN ROSLI組)のRAMDANも2分16秒台に突入。PlanBee Racing Motofine23(井利元新/山口辰也組)の山口が2分16秒525をマークしてタイミングボードのトップに立つが、RAMDANがすぐにそれを上回る16秒124を記録。結局それがRider YELLOWのトップタイムとなった。また、HondaブルーヘルメットMSC(富江慧/西山尚吾組)の富江がマークした17秒262がナショナル4hoursのコースレコードを更新している。

グリッドはRider BLUEとRider YELLOWがマークしたトップタイムのアベレージによって決まる。今回はAKENO SPEED×GBレーシング(田中/RAMDAN組)がポールポジションを獲得することとなった。この予選で決まったグリッドにより、8月4日(日)の正午ちょうどに4時間におよぶ決勝レースの火蓋が切って落とされることになった。



AKENO SPEED×GBレーシングの田中啓介(右)/RAMDAN ROSLI組がポールポジションから最後の鈴鹿4耐に挑むこととなった

## 2024ブリヂストン鈴鹿4時間耐久ロードレース<ST600>

### 決勝レースレポート

8月4日(日)の正午、ル・マン式によって4時間におよぶ耐久レースがスタート。6番グリッドからスタートしたTOHO Racing Club & K0&ノジマ(羽根/笠井組)の羽根がホールショットをゲット。ポールポジションからスタートしたAKENO SPEED×GBレーシング(田中/RAMDAN組)の田中がそれに続くが、2番グリッドからスタートしたSE competition(千田/酒井組)の千田がその田中をパス。千田は2周目に羽根をもパスして早くもトップに立つ。

しかし、スタート直後の2周目、転倒したマシンが複数台あったことにより、セーフティカーがコースへ。リスタート後、千田が徐々に独走状態を築いていく。その後方では羽根、田中、Astemo SIRacing with Thai Honda (THANAT LAOONGPLIO/KIATTISAK SINGHAPONG組)のTHANAT、PlanBee Racing Motofine23(井利元/山口組)の山口がテールtoノーズのバトルを展開。そこにHonda Suzuka Racing Team(井手/中島組)の中島が加わる。田中が13周目に転倒し、ポジションを失うと2番手グループは4台での争いとなる。

そろそろピットインのタイミングとなり、2番手グループの中からまず中島が20周目終了時点でピットへ。井手にライダーチェンジする。続いて山口もピットに入り、井利元にチェンジ。羽根も笠井に代わる。23周を消化した段階でトップの千田、THANATもピットイン。それぞれ酒井、KIATTISAKへとライダーチェンジした。代わったKIATTISAKが徐々に酒井に接近すると、28周目にトップに浮上。KIATTISAK、酒井、笠井の3台はそれぞれ単独でトップ、2番手、3番手に。しかし、笠井が39周目に転倒。これにより、3番手となった井出が40周目終了時点でピットへ。中島へとライダーチェンジする。

酒井から再び代わった千田がKIATTISAKから引き継いだTHANATに徐々に接近していく。レースが折り返した頃、逆バンクで転倒したマシンがあったため、この日2回目のセーフティカーがコースへ。これにより、THANATと千田のギャップがなくなった。リスタート後、すぐに千田がトップに立つ。その千田が64周目終了時点でピットインすると、その時点でトップとなったTHANATは68周目を消化したところでピットに入る。トップのままのKIATTISAKはその後も安定したタイムでラップを刻みながらその座を守ると、90周目を消化した時点で最後のピットへ向かった。コースに復帰したTHANATの背後に千田が差を詰めて接近するものの、逆転はならず、Astemo SIRacing with Thai Honda (THANAT/KIATTISAK組)が総合優勝を飾ると同時にインター4hoursを制した。ナショナル4hoursのウィナーは総合9位のCLUBモトラボEJ&速心(楠留維/江直瑩組)だった。



耐久レースのセオリー通り両者とも安定して速いペースで周回を重ねたTHANAT LAOONGPLIO(右)/KIATTISAK SINGHAPONG組(Astemo SIRacing with Thai Honda)が優勝、有終の美を飾ることになった。

BRIDGESTONE 2024  
Suzuka 4 hours

2024ブリヂストン鈴鹿4時間耐久ロードレース<ST600>



ブリヂストン鈴鹿4時間耐久ロードレース<ST600>/総合表彰式 優勝: Astemo SiRacing with Thai Honda (THANAT LAOONGPLIO / KIATTISAK SINGHAPONG) 2位: SE competition (千田俊輝 / 酒井隆嗣) 3位: Honda Suzuka Racing Team (井手瑠輔 / 中島元気)



ブリヂストン鈴鹿4時間耐久ロードレース<ST600>/ナショナル4hours表彰式 優勝: CLUBモトラボEJ & 速心 (楠留維 / 江直登) 2位: FASTwithSHIN-RS & クレオサービス & ナカタ通商 (小野拓也 / 笹之内英作) 3位: ファンファクトリーRT & プレシャス & ラスカルキック (山口直哉 / 小松孝章)

BRIDGESTONE 2024  
**Suzuka 4 hours**

2024ブリヂストン鈴鹿4時間耐久ロードレース<ST600>



優勝して喜び溢れるAstemo SIRacing with Thai Hondaを運営するSIRacing、タイホンダ、そしてホンダ・レーシングの面々



鈴鹿4耐第1回大会(1980年開催)でノービスクラスポールポジションの堀ひろこ/今里峰子組のGS400E。マシンを復刻して、セレモニー後にパレードラン(ライドは堀ひろこさん)